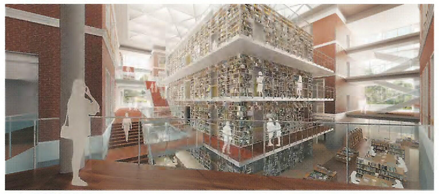
▶ TOPIC

今出川校地 新図書館の建設(2026年秋頃に竣工予定)



新図書館

さらなる知の創造と活用の場へ、図書館が生まれ変わります。外観は煉瓦積みの意匠を踏襲しつつ、内部は地下から屋上までを吹き抜け空間に。中央に蔵書を集約し、周囲を囲むように閲覧席を配置。読書や学習に没頭できる場所だけでなく、機能に応じて多様な空間を生み出しています。

京田辺校地 未来へ躍進、京田辺キャンパスリニューアル

2026年に開校40周年を迎える京田辺キャンパスでは、新たな学びを促すアクティブ・ラーニング教室や交流空間を整備し、多様な個性が集う場へ進化します。また、誰もが気軽にスポーツを楽しめる「スポーツ・コンプレックス」を建設中で、大学と地域が交流できる拠点を目指します。

スポーツ・コンプレックス

京田辺キャンパスリニューアル

▶ 同志社大学ビジョン

共に知る、共に変わる — With a Good Conscience

1. 良心に基づいた総合知の展開と「智徳並行」教育の深化
2. 京都との共創から生み出される新たな社会貢献
3. 隣人愛に基づく「国際主義」の実践
4. 多元的イノベーションを引き起こす研究基盤の形成
5. 新たな時代へのゲートウェイとなるキャンパスの創造と連携

同志社の新しいビジョン

特別記念対談

紡ぐ志

同志社大学の150年と新しいビジョン

読売テレビアナウンサー 中谷しのぶさん

並行』教育の深化」を掲げています。

時代を切り拓く 真の大学教育を目指して

小原 卒業生として、中谷さんはこれからの同志社大学に何を期待されますか?

中谷 「良心教育」やキリスト教に基づく国際的な人物の育成という方針の下で、いろいろチャレンジをさせていただいたことが、今の仕事に生きています。その方針はそのままに、新しいテクノロジーも活用し、時代の先端を切り拓いていってほしいと思います。新島襄先生が世界へ飛び出したことから始まった大学だからこそ、新しいチャレンジを拒むことなく受け入れて、さらに広げていくのが理想であるように感じます。

小原 おっしゃる通りですね。時代を切り拓くという意味で、同志社は科学技術イノベーションと社会的・倫理的イノベーションを融合した「多元的イノベーション」の創出にも挑戦します。イノベーションというと技術に偏りがちですが、正しく運用するには法整備や新しい倫理が必要です。理系と人文社会系の学問を組み合わせ、真のイノベーションを生み出す大学をこれからも目指してまいります。

中谷 私も、様々な情報があふれている今だからこそ、事実をありのままお伝えし、見てくださる方の判断材料にしていただきたいと思いながら日々ニュースに向き合っています。これからも現場で見て、聞いて、感じたことを素直な言葉でお伝えしていきたいです。

小原 最後に、受験生・在学生へメッセージをお願いします。

『同志社に興味・関心の種を育まれ、可能性を広げてもらいました』 ―― 中谷しのぶさん

中谷 学生時代はあっという間に過ぎてしまうので、自分の興味や関心のあることを精いっぱいやって、新しい一歩を踏み出してください。恵まれた環境を存分に使って人生の種まきをし、しっかりと水やりをしてほしいと思います。

小原 高校までの勉強は、好きなことを我慢してするイメージがあり、重荷に感じていたかもしれません。けれども新島は、学ぶことによってこそ人は自由になれると信じていました。ぜひ同志社大学で、そんな経験をしていただきたいと思います。

(こはら・かつひろ)1965年、大阪府生まれ。同志社大学大学院神学研究科博士課程修了。博士(神学)。同志社大学大学院神学部教授、良心学研究センター長。専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究、先端医療、環境問題、性差別等を巡る倫理的諸問題、宗教と政治の関係、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論に取り組む。

(なかたに・しのぶ)1988年、兵庫県生まれ。同志社香里高校を経て同志社大学文学部英文学科卒業後、読売テレビに入社。アナウンサーとして報道やバラエティー番組を担当し、最前線での取材も多数。2017年から「かんさい情報ネットten!」、21年から「ウェークアップ!」(25年3月終了)メインキャスター。高校3年時に英検1級取得。趣味は旅行。

企画・制作/読売新聞社ビジネス局 広告

共に知ることによってこそ、共に変わることができる

本日、同志社は創立150周年を迎えました。

150th 1875-2025 ANNIVERSARY

新島襄が創立した同志社は、「自由」と「良心」を柱に、
時代を牽引する人物を多く輩出してきました。
建学の原点に立ち返りつつ、より進化を目指す大学のあり方について、
小原克博学長と、読売テレビアナウンサーとして活躍中の卒業生、中谷しのぶさんが語り合いました。

新島襄が目指した同志社創立の理念とは

小原 幕末に渡米した新島襄は、欧米の視察を通して教育の重要性を深く認識し、150年前の1875年(明治8年)に同志社英学校を設立しました。江戸から明治に大きく体制転換したとはいえ、封建的な考え方が根強く残る日本には、新しい教育が必要だと確信したのです。当時の新島の言葉は、どれも時代に対する「挑戦状」のようで、強い信念がうかがえます。

中谷 私は父の仕事の関係で幼少期をハワイで過ごし、英語を生かしたいという思いから、同志社英学校を前身とする同志社大学文学部英文学科に入学しました。同志社香里高校から進学したのですが、周囲にはいつも、夢や目標に向かって前向きに頑張る仲間が大勢いました。

小原 国を飛び出してまで新しい何かを求め続けた新島に鼓舞され、感化された人たちによってつくられていったのが同志社です。その伝統が今も受け継がれているということなのでしょう。

中谷 150周年のお祝いコメントを卒業生の一人として出させていただいた時に気づいたのですが、本当にたぎるような知的好奇心や冒険心で社会を牽引されている先輩方が多くいらっしゃいますね。自由で伸び伸びと学生を育てる環境が整っていることに改めて気づかされました。

小原 「富国強兵」というスローガンの下、国の役に立つ人材の"大量生産"が教育機関に求められた時代にあって、新島は、自分の頭で考え、行動する大切さを説き、自ら実践してきました。今に至るまで「自由」は同志社の最も大事な理念であり、学風です。

学びを深め、交流を広げる「個」を育む教育環境

小原 数ある職業の中からアナウンサーを目指されたきっかけは何だったのですか?

中谷 高校時代、報道番組である女性キャスターを見たのがきっかけです。実直にニュースを伝えられている姿に憧れました。とはいえ特別な勉強はせず、学生時代は英語とピアノに打ち込んでいました。ピアノサークルでは、今出川校地の寒梅館でコンサートも開きました。

小原 専門知識だけでなく、幅広い教養を身につけ、社会と接点を持つことも大学の大切な学びです。

中谷 はい。3、4年次生で受講したプロジェクト科目では、地域の方と子ども向けクラシックコンサートを企画したり、太秦から講師を招いて映像製作に取り組んだりしました。歴史ある京都という町自体、寛容性も高いように思います。その中で同志社に興味・関心の種を育まれ、可能性を広げてもらいました。

小原 恵まれた社会環境が備わっているのが同志社のアドバンテージの一つです。約2万9000人の学生が通うマンモス大学ですが、新島の「人一人は大切なり」という言葉通り、先生方は学生たちに真摯に向き合っています。さらに学生たちが勉強やスポーツなど関心のあることに打ち込める環境をつくろうと、今出川では図書館の建て替え工事、京田辺ではスポーツ・コンプレックスの新設を中心に、学びを深めるラーニングエリアの整備、学習環境の刷新を進めています。

中谷 慣れ親しんだ景色が変わることは少し寂しくもありますが、新しいキャンパスの姿も楽しみです。

共に知り、共に変わる 今求められる「良心教育」

小原 150年の歩みを踏まえ、我々は未来へ向ける新しいビジョン「共に知る、共に変わる―With a Good Conscience」を策定しました。conscienceは儒教から取った「良心」が訳語として定着していますが、原義は「共に知る」で、善悪の価値判断は含みません。今の社会は善か悪か、敵か味方かとすぐレッテルを貼りがちですが、それが社会の分断を生み出しているのかもしれません。であれば我々は「共に知る」を出発点にしたい。共に知ることによってこそ、共に変わることができる。それが新島の言う「良心」なのです。

同志社大学 学長 小原克博

『学ぶことによって人は自由になれる』 ―― 小原克博 学長

中谷 「共に知る」ことは大切ですね。アメリカ大統領選を取材した時、「分断」という言葉が言われる中でも、互いの意見を尊重しようと活動する人々の姿がありました。「知ること」で民主主義が守られていくことを強く感じさせられました。

小原 現在はインターネットで世界中の様々な情報を手に入れられますが、ともすれば自分好みの情報空間に安住し、立場の違う人たちの考え方を理解しづらくなっているように思います。新島は、同志社教育の真髄は智徳並行教育であると言いました。新しい知識を吸収するとともに、それとバランスを取ることができる心のあり方があってこそ両方がうまく生きるという意味です。新しいビジョンの一つにも『智徳並行』教育の深化」を掲げています。

京田辺キャンパス

あなたにとって「同志社とは?」

学生に聞きました

大学SELECTION

大学の魅力を紹介
WEBサイト・動画をチェック!

今出川キャンパス